

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	有限会社 ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽 (あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-1		
自己評価作成日	平成25年11月 7日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosvCd=2173200193-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成25年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気大切に、笑顔の多い暮らしが出来るよう支援している。 ・個性や特技が生かせるような、個別の対応を心掛けている。 ・管理者は現場をよく見ており、職員一人ひとりにも声を掛けるなど理念が浸透する努力をしている。 ・利用者のみならず、その家族の思いも大切に、信頼関係を築く努力をしている。 ・理念の通り「地域の中で自由と安全と楽しみを持って暮らしたい」に少しずつ近づいているのではないかとと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に忠実に、そして認知症高齢者に対する介護の基本通りに、管理者と職員が一体となって支援している。管理者の“熱い思い”が職員に理解・浸透しており、「忠実な支援」に繋がっている。また、この強い思いがこの事業所の理念や運営の下支えとなっている。</p> <p>「職員の成長や満足がサービスの向上に繋がる」との考えの下、リーダー会議、ミーティング、研修会や資格取得支援を通し、職員育成に力を入れている。その考えが「イズム」として浸透し、管理者と職員との信頼関係やモチベーションの高揚につながり、質の高いサービスへと結びついている。</p> <p>家族のアンケートや外部評価の結果にも耳を傾けるなど、一つひとつの改善に向けて、地道な努力を惜しまない。家族から絶大な信頼を得ている所以である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、職員が常に目にする場所に掲げている。又、ミーティング等で具体的な内容を挙げ確認している。	地域密着型サービスの社会的役割を認識し、「理念」や管理者の強い思いが全ての職員に《イズム》として深く浸透しており、利用者にとって質の高いサービスに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、幼稚園、小学校と年間を通して行き来し交流がある。 月1回づつのカフェ、地域のボランティアの方達と交流する場がある。	地域との交流が深みを増している。地域の人々を対象に、「喜楽くらぶ」の運営や行事への参加、幼稚園・保育園・老人会との交流、日頃の買い物、散歩などを通して、地域と深く関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者等が地域へ出向き、認知症ケアの啓発に努めている。又、実習生の受け入れを積極的に行い人材育成に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等を職員のミーティングの場で提示し、話し合っている。又、運営推進会議の場を現場で行い、より多くの情報を得てもらい意見をもらうようにしている。	行政、家族、住民代表、利用者家族OBや多くの利用者も参加し、公開の中で隔月に開催されている。活発な会議の様子が、議事録の記述からも読み取れる。利用者・家族からは感謝の言葉が発せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席してもらい実情を把握してもらっている。	広域連合や地域包括センターの担当者も運営推進会議のメンバーであり、会議での意見交換を通して、実情を把握してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会に職員を参加させ、その内容について全体やユニット毎に話し合う場を設けている。 玄関は日中施錠せず、外へ行かれる利用者があればまず見守りをして、安易に止めるような声掛けをしない様に努めている。	職員は外部研修や事業所内の研修等を通して、身体拘束をしないケアの重要性を十分に理解している。夜間以外は玄関を施錠せず、利用者によすらぎを与えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての勉強会に職員が参加している。 機会ある毎に自分たちの行うケア等が虐待にあたらないかミーティング等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応は管理者がしているが、職員も研修に参加したり関係資料を読んで理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	状態の変化があった場合は、その後の対応・方針も含め、納得を得られるように家族と相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の会話の中や運営推進会議の時などに自分の意見を述べてもらい、自分の思いを伝える機会を設け支援に結び付けている。	運営推進会議には多くの利用者や家族が参加し、意見や要望に対しては職員間のミーティングで話し合うなどしてホーム運営に反映させている。家族アンケートにも十分に耳を傾け、改善に努めようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、ユニット毎のミーティングをそれぞれ月1回行い意見を聞くようにしている。代表者、管理者は日頃から職員の要望、意見を聞くように心がけている。個別面談で思いを聞くようにしている。	リーダー会議、ミーティング、個別面談などを通し、職員の要望や意見を聞くように心がけている。管理者が頻繁に事業所内を回り、職員との会話によって相互のベクトルを合わせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来て利用者や職員と会話を交わし、現状を把握し、職員の資格取得に向けた支援や、やりがい、向上心の持てる職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはケアの技術面だけでなく、理念や利用者との関わり方等丁寧な指導を心がけている。 外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者間交流研修等積極的に参加し、他施設の見学、相互研修、事例検討会を通して事業所内外の意見や経験をケアに活かしサービスの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の行動、表情を見極め、要望や思い、不安に向き合い、安心してもらい信頼できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや困っている事、不安に思っている事に耳を傾け、安心してもらい信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現状を踏まえ、できる事は実行し、出来ない事でも方策を考え、繰り返し相談し、向き合いながら必要なサービスにつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように場面づくり、声掛けを工夫し配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人を支える姿勢で、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めたり、一緒に考えていけるよう繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、行きつけの美容院へ行ったり、入所前と同じように嫁いだ娘宅へ毎月外泊されたりしておられ、生活習慣の継続が出来るよう努めている。	馴染みの美容院や、娘の嫁ぎ先に泊りに行く利用者がおり、家族と協力しながら関係が途切れないように支援している。山口県出身の女性利用者は、そこで暮らした若い頃の話をして、望郷の念を抱いて話してくれた。	人それぞれに、こだわりの場所や思い出の場所がある。もう一度会ってみたい人がいる。そのポイントに迫っていく支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性をうまく生かす配慮をして利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅へ戻られてからも、同一法人内の支援事業所で支援を続けるなど、本人や家族の相談・支援に努めている。ご本人が亡くなられた後も、]家族と交流を続けている方もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話や、ケアプラン作成前に本人や家族の思いや意向を聞きそれを把握している。	体調を崩していた女性利用者が快復し、「ディズニーに行きたい」と言い出した。これら、日々のケアの中でつかんだ利用者の思いや意向は、その日のうちに記録に留めている。家族の思いや意向も把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の記録やフェースシートやバックグラウンドアセスメント、日々の関わりの中での会話により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録や連絡ノート、ミーティング等により情報交換しそれを共有する事により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで意見交換し、本人家族の思いなどを聞きプランを作成している。	ケアのあり方について関係者と意見交換し、利用者や家族の思いを聞き、介護計画に反映させている。利用者本位の介護を目指し、定期見直しだけでなく、病院からの退院時等、実情に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の個別記録や、水分、薬、排泄記録により職員間で情報を共有し、ミーティング等で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に配慮しながら状況に応じ、訪問マッサージや口腔リハビリなどが利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内にて隔月に開かれている運営推進会議にご家族、ご本人も共に参加されて、活発に意見交換をされている。又、マッサージ及び理容のサービスも希望により受けられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者個々に馴染みのかかりつけ医があり、基本ご家族同行の受診となっている。緊急時は職員が代行し情報は共有している。受診できない方は訪問診療をお願いしている。	多くの利用者が、以前からのかかりつけ医を継続して利用している。往診も含め、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調を把握し、変化を早期に発見し、看護職へ情報連携し適切な医療へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来るだけ詳細にご本人の情報を医療機関へ提供する。入院中は職員が交代でお見舞いし、家族・医療共に状況を交換し早期退院できるよう支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況、段階に応じて話し合いを繰り返し、ご家族、出来ればご本人の意向に添った終末期ケアに取り組んでいる。ターミナルケア、グリーフケアについても勉強を重ねている。	一昨年、家族との面談を実施し、「終末期のケア」について意見交換を行い、考え方の共有が図れた。特段の事情(継続した医療行為の必要性等)がなければ、「最後まで看取る」ことで合意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し、対応方法を話し合い、勉強会を行ない、日々の中でいつも意識し、急変時に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日に日中、夜間を想定し避難訓練を実施している。又、年一回消防署の協力を得て経路の確認、消火器の使用方法等の訓練も実施している。又、非常食、水の備蓄も行っている。	地震や火災に備えるべく、日中・夜間を想定して定期的に避難訓練を実施している。年一回、消防署の協力を得て、立会いの訓練を実施している。昨年の反省を踏まえ、スロープの改良工事を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、丁寧な言葉使い、態度が心にかけている。トイレ、入浴時のプライバシーを意識している。	職員の配置にゆとりを持たせ、職員は利用者一人ひとりに合わせて、その場の状況に応じた丁寧な言葉使いや態度で対応している。その人の思いを推しはかったケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者に合わせて声を掛けるように心にかけている。混乱の無い様簡潔な質問で希望を伺う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調を把握し、力を活かした生活やご希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれについては家族・ご本人と相談しながら希望に添うようにしている。身だしなみについては毎朝の整容や状態に合わせた更衣、入浴などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの力に応じ準備に参加して頂き、三食必ずスタッフも一緒に食事をし食器洗い、拭きや片付けも一緒に行っている。	利用者と職員が同じテーブルを囲み、ゆったりとした中で食事を楽しんでいる。利用者は全て女性であり、半数ほどの利用者は慣れた手つきで食事の準備や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜・副菜を工夫しバランスの良いメニューで、場合によって水分表をつけている。食事量も一人ひとりに合わせて、なるべく御自分で食べて頂くよう様子をみながら形状も工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は朝・夕とご自分でされ、出来ない方はスタッフが手伝い、定期的に医師の診察をしてもらう方もあり指導に添ったケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議で話し合い、その人に合う排泄パターンを工夫し、なるべくトイレで排泄されるように支援している。紙パンツの使用は必要最少限としている。	その人なりの排泄パターンや習慣を把握し、上手に連れ出すなどして、なるべくトイレで排泄できるよう、自立に向けた地道な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、場合によっては個人に応じ服薬をしてもらっている。食物・水分・運動での予防を主に考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、決まり事とせず、希望やタイミングを合わせるようにしている。	殆どどの利用者が、計画的に一日置きに入浴している。日によっては入浴を拒んだり、体調不良の時もあり、本人の意思やタイミングを合わせて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事や買物や散歩などをして頂き生活リズムを工夫して支援し、夜間の眠りにつなげるようにしている。昼寝は自由にして頂いているが長くないように声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋を読み把握するようしており、変更の場合は連絡帳に記入する等して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握して得意な事、家事等の出来そうな事をして頂けるよう支援している。趣味なども行える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	不定期であるが、福祉バスを利用したり、家族の方の参加も得ながら外出している。	家族も参加し、花見、いちご狩り、公園散策、夏祭りなどの行事を楽しんでいる。また、その日の声かけや希望に沿って、買い物や近くの散歩など戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各々、少額の預かり金があり、その方の状態に応じスタッフと一緒に買物をする等してご本人の希望に添うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除などで清潔に心がけ、環境整備にスタッフ同士で声掛けをしている。 季節の花を飾ったり、季節感のある掲示をする等や手作りの日めくりカレンダーを掲示している。	建築基準法上の問題を指摘されていたウッドデッキが改築(問題解決)され、名実ともに“オープン・デッキ”となった。来春から、この場所を活用して様々な楽しみごと(ホームイベント)が展開される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルや個人の椅子やソファ、テレビ、畳コーナー等、メリハリのあるように配慮をしていて自由な過ごし方を選択できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し使い慣れた物や好きな物を活かしている。動線に即した配置をして安全性やその方の能力を活かすようにしている。	体調が悪くない限り、昼間は居間で過ごしてもらいたいとの思いから、居室にはテレビの持ち込みはない。どの居室も掃除が行き届き、整理・整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファや椅子や手すりを設置し、なるべく本人が自分で歩けるように工夫している。 洗面所やトイレ等文字を大きくした物を貼って理解頂くようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	有限会社 ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽 (きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-1		
自己評価作成日	平成25年11月 7日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosvCd=2173200193-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成25年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気大切に、笑顔の多い暮らしが出来るよう支援している。 ・個性や特技が生かせるような、個別の対応を心掛けている。 ・管理者は現場をよく見ており、職員一人ひとりにも声を掛けるなど理念が浸透する努力をしている。 ・利用者のみならず、その家族の思いも大切に、信頼関係を築く努力をしている。 ・理念の通り「地域の中で自由と安全と楽しみを持って暮らしたい」に少しずつ近づいているのではないかとと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に忠実に、そして認知症高齢者に対する介護の基本通りに、管理者と職員が一体となって支援している。管理者の“熱い思い”が職員に理解・浸透しており、「忠実な支援」に繋がっている。また、この強い思いがこの事業所の理念や運営の下支えとなっている。</p> <p>「職員の成長や満足がサービスの向上に繋がる」との考えの下、リーダー会議、ミーティング、研修会や資格取得支援を通し、職員育成に力を入れている。その考えが「イズム」として浸透し、管理者と職員との信頼関係やモチベーションの高揚につながり、質の高いサービスへと結びついている。</p> <p>家族のアンケートや外部評価の結果にも耳を傾けるなど、一つひとつの改善に向けて、地道な努力を惜しまない。家族から絶大な信頼を得ている所以である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会やミーティングにて時に触れ、管理者と職員で話し合い理念に添ったケアを心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、幼稚園の行事に招待されたり、逆に来て頂いたりしながら交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々との交流や地域の方からの相談を受けたりアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をミーティングで報告し、これからのケアに繋げていけるような話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティングにて職員が身体拘束について学んだり、日中の玄関の施錠、身体拘束のないよう見守る事を心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で常に意識し、又ミーティングで話し合い、相談しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分説明を行い、改定等の際は文章により説明し理解、協力を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、利用者、家族の方にも出席していただき、意見、要望を尋ねている。また、普段の御家族の来所時にも積極的に会話に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談やミーティングにて意見交流できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心、やりがいをもって介護等出来るよう職員と利用者さんとの関わり方を見守り、助言、言葉がけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を設け、その報告書も全職員が閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者間交流、研修会にて活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾けながら、本人の思いを受け止め、安心出来るよう関係づくりにい努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安なこと、困っていることを聞き、納得、安心が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談や施設の見学により、本人、御家族が何を望まれているのか、何がいいのか考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とは普段の生活、会話を通じてお互いの知恵や知識を交換しながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の思いに寄り添いながら日頃の様子をお互いに情報として共有し、協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のお常飯に出かけられる方や知人が来所された場合は、一緒に過ごしていただくなど生活習慣や繋がり継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が個々に関わって話を聞いたり、他の方も交えて会話出来る場面をつくるなどしている。レクリエーションや家事仕事など共有の時間を持つ機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所や退所等でご利用が終了しても、訪問したりお電話をかけたりにして近況を窺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状況に応じて、本人の思いを聞きながら意向を把握し、できる限りそれに沿えるよう努めている。意思疎通が困難な場合は、ご家族より情報をいただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント情報だけでなく、日々の関わりで気付いた事や知った事も追加情報としてまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調をみながら生活リズムの把握をし、変化に気づけるように努めている。そこから、「できること」の継続につながるケアを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、ミーティングや担当者会議などで話し合いながらケアに反映させるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートなどで日々の情報を共有出来るようにしている。また、それを活用して介護計画等の評価、見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思いを把握し、必要な場合は通院や送迎等の支援をしている。また、お食事などご家族も一緒に出来るようお声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや、保育園や幼稚園の行事での交流を大切にしている。また、運営推進会議を定期的に関き地域や関係機関から情報、協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。通院だけでなく、必要時には往診、訪問看護師による治療を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に気付いたことはすぐに報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所からお見舞いに行ったり、また、病院関係者や家族から入院中の詳しい情報を得るようにしている。病院、家族、事業所と話し合っって早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と常に話し合い、医師とも相談をして方針を決定。情報を共有し出来る限りのケアに努められるよう更に話し合いを進めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを完備し、また、勉強会などで対応の仕方などについて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練と半年に1度消防署立会いで訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、ケアに対してはさりげない言葉かけや対応をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話される方には耳を傾けたり、遠慮されていないか気を配る。また、思いを話されない方には表情を読み取り思いをくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人の思いに添うように心がけている。しかし、時に行事、入浴等スタッフの都合によることも生じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる人には自由に選んでいただいている。良く分からない方には二者択一等をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもではないが、利用者の希望の食事や行事を作ったりしている。また、その人の出来る刻み、盛り付け、片付け等職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の人、義歯の人、歯茎だけの人等おられるので刻み、お粥、ゼリー状等その人に応じた料理法で提供している。また、水分の摂れない方には、チェック表をつけて記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後の口腔ケアをしている。自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方は歯ブラシの他スポンジ、歯間ブラシ等利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄に心がけている。また、紙パンツ、パット類の使用もミーティング等で皆で検討後にしている。さりげない誘導に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動に心がけているものの、運動は理想的な量程実施できていないのが現状。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	元気な人でも日中入浴していただいているのは申し訳ないと思う。それでも入浴はとても喜ばれる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休まれることに対しては自由にさせていただいているが、長くなりそうな時は声かけをさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は手渡し、飲まれるまでの確認をしている。処方箋の内容は職員全員が理解しているとは言えないので徹底したい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、趣味等、その人の得意な事をやって頂いたり、職員も一緒に行事に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的とは言えないが、できる限りで外出したり、時に福祉バスえお利用して皆で外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かって事業所が管理している。利用者の希望の物を買う時は、本人と一緒に買って買ったり、職員が頼まれて買って来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんより電話の希望があった時は、職員が見つないで本人が話をしている。手紙のやりとりは最近はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が一番良く過ごされる居間での温度・湿度は計測器を設置し、適温を保つようになっている。 季節の花や飾り物、鈴虫の世話等一緒に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に食事の場所以外は自由なので居間や廊下のソファを使ったりして思い思いに動いていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、家具等持って来て頂き、少しでも居心地の良い居室にと心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な目印や物の配置に気を付け環境整備を行っている。		